

4年1組 いきいきタイム学習活動案

場 所 4年1組教室
児 童 男子13名 女子16名 計29名
指導者 千葉 仁

1 単元名 「伝え合う心と心」

2 単元の目標

- (1) 障害を持つ人たちの立場や取り巻く環境に関心を持ち、進んで調べたり体験したり考えたりしようとする。 【総合への関心・意欲・態度】
- (2) 体験したことや考えたことをもとに、課題を設定することができる。【課題設定の能力】
- (3) 課題を解決するために、友達と協力して活動することができる。 【協力・協調して活動する能力】
- (4) 「伝え合う」ことを意識し、何を伝えるかを考えながら、体験したり調べたりすることができる。 【問題解決の能力】
- (5) 調べたり体験したりしたことをもとに、自分なりの意見を持ち、その表現の仕方を工夫し、伝え合うことができる。 【学習活動にかかわる技能・表現力】
- (6) 自分なりの考え方もち、これからの生活に生かそうとする。 【自己の生き方を考える能力】

3 単元について

(1) 設定の理由

本単元は、3年生から積み上げてきた地域の人とのかかわりをさらに継続発展させる学習としての性格を持たせたいと考え設定するものである。

児童は3年生のときから社会科見学をはじめ、総合的な学習の時間の中でもたくさんの地域の人たちと接してきた。また、地域に出かけていって、直接自分たちの目や耳、体を通して自らの課題を解決してきた。前単元でも岩崎川について1学期間を通し、実際に調べに出かけたり、役場の方や地域の詳しい方に話を聞いたりして地域学習を進めてきた。そのねらいは、地域の人たちが地域の発展のために、あるいは、矢巾町に住む多くの人たちのために、知恵を出し合い、汗を流し、そして、仕事に情熱を傾け生きている生の姿に接することにあった。その学習を通し、個人差はあっても「素晴らしい人たちがいる。」「あの仕事の仕方はすごいな。」「ぼくもあんな仕事がしたい。」という心を揺さぶる経験を数多くしてきた。

これまでは「仕事」という視点での学習であったが、本単元では「障害」という視点での学習としたいと考える。障害を持ちながら、たくましく生きている人たちの生き方やその実際に触れることで、障害を持つ方への偏見を取りのぞき、児童自身の考え方やものの見方に、4年生なりの深まりや広がりを加えたいと考え、本単元を設定した。

(2) 児童の実態

児童は、1学期間、『岩崎川調査隊』というテーマで、社会科の上下水道やゴミの学習と関連づけて、実際に施設見学に行ったり、自分たちの課題解決のため何度も調査活動に出かけたりした。その調査結果に基づき、ポスター形式などでまとめさせ、グループごとに発表しあい、相互評価を行いお互いのよさを学び合った。その際、実物を使って説明したり、発表内容をクイズ形式で聞き手に問いかけたり、写真やグラフなどを用いたりするなどして、「聞き手に分かりやすく」を意識した発表会となった。この発表会の前に、5年生の発表会に招待され、資料作りや発表のスピード、内容、声の大きさなど、よりよい方法を学ぶ機会もあり、児童のより高まった資料作りを行おうとする動機付けとなった。最後のまとめとして新聞作りを行った。

3年生の国語科「見たり聞いたりしたことと感想を分ける。」という学習の発展として、「意見と感想」を分けて書くこととし、内容的にはもう少しだったものの、調べたことをもとにして、自分なりの意見をまとめることができた。さらに、実際に体験することを重視した本単元では、事実と意見、感想を分ける書き方についても学習をさせていきたいと考える。

本単元にかかわる事前のアンケートでは、『福祉』という言葉聞いたことがあるという児童が予想以上に多かったものの、その意味については「分からない。」と回答している。障害をもつ方との関わりも、直接触れ合った児童はもちろん、テレビなどで見たことがあるという児童も含めると約7割の児童が「持ったことがある。」と答えている。中身をみると、直接的なかかわりは全体の約3割になっており、その内容は、ボランティア体験をしたことがある。

身近に生活している。一緒に遊んだことがある。というものであり、思った以上に児童の生活の中に存在していると感じた。「障害をもつ方についてどう思いますか。」という質問に対しては、「かわいそう。」とか「たいへんそう。」というように書いた児童が多く、ある程度、接したことがあるという経験によるものと考えられる。本単元を通し、『福祉』学習のスタートとして、障害をもつ方の立場に立つ体験や直接的・間接的に話を聞く活動などの交流学習を通じて、現時点の児童の考え方や見方に揺さぶりをかけることにより、深まりや広がりを持たせていきたい。そして、「だれかのために、自分にできるなにかをしたい。」という気持ちを培っていきたいと考える。

(3) 指導にあたって

「つかむ」段階では、道徳の資料を用いて障害をもつ方々のことについて話し合い、スムーズに、簡単なキャップハンディ体験に結びつけ、「障害」という問題の意識をもたせていきたい。

「さぐる」段階では、障害をもつ方との交流と体験を重視していく。それは、体験をもとに、その実際場面と五感を使って感じたことや思ったことを、自分なりの事実としてとらえさせ、「話し言葉」や「書き言葉」として、自己評価的にまとめさせることにより、児童の考え方・見方に深まりをもたせ、それを意識づけたいと考える。

「まとめる」段階では、「誰に」という観点で相手意識をもたせながら、体験したり考えたりしたことをもとに発表方法・表現方法を工夫させていきたい。これまでの「総合的な学習の時間」の発表会では、模造紙や紙に調べたことをまとめ発表することが多かった。本単元では、まとめと発表の間にワンクッション置き、計画を立案させる時間を設定した。そして、動的な表現方法を工夫させ、児童にとって新しい発表方法を学ばせていきたい。また、学級間・グループ間の相互交流の場を「中間発表」という形で設定することにより、お互いのよさを学び合うことを体験させたい。その中で、より相手に伝わる発表や話し方を相互評価させるとともに、他のグループのよさを見つけるという聞く観点を与え、自分たちのグループに建設的に生かすようにしていきたい。

「いかす」段階では、学年交流会を通し、感じたことをまとめさせ、今後の生活に生かせるよう助言を与えていきたい。

各段階において、国語科『新聞記者になろう』で学習した事実の書き方と感じたことや考えたことを分けて書いたり発表したりする中で、次の学習での意欲づけを図りつつ、個々の児童に意識の深まりを感じさせていきたい。

4 単元の活動計画 30時間扱い

段階	予想される児童の活動	時間	児童の活動を支援する手だて	評価の観点と評価計画	活動形態
つかむ	1 道徳資料『心の信号機』を読み、障害のある方について話し合う。 どんな障害をもつ方と接したことがありますか。	関連	* 道徳の時間を活用し、資料をもとにしながら、障害をもつ方と接した経験のある児童の体験談も交え、関心をもたせる。		学級
	2 簡単にできるキャップハンディ体験をする。	2	* グループ活動とし、本『みえないってどんなこと』を活用しながら体験内容を決	活動したことを通し、テーマにそって感じたことをまとめ	グループ

	目が見えないことってどんなことだろう		めさせたい。体験する側と支援する側に分かれ、それぞれの立場で感じたことをまとめさせたい。	ることができたか。 【発言・ワークシート】	
	3 障害をもつ方について調べる。 どんな障害をもつ方がいますか。 《調べ学習をする》 ・本やインターネット ・家の人に聞く。 《発表する》	2	* 調べる観点を示しながら、調べ学習を導くことによって、他の「障害」についても関心を持たせたい。 《調べる観点》 ・どのように話すか ・どのように聞くか ・どのように読むか ・どのように行動するか ・どのように見るか	調べる観点到って調べることができたか。	個人
	4 いろいろな体験をする それぞれの障害をもつ方の立場になって体験をしてみましょう。 ・白杖体験 ・点字体験 ・手話体験 ・車椅子体験 体験したことをスピーチメモにまとめ発表しよう。 ・事実 五感で感じたこと 自分の考えと感想	4	* 町の福祉協議会の方に協力していただき、キャップハンディ体験をする。その際、児童の興味・関心にそって選択させる。 * 国語『十才を祝おう』と関連づけ、話の中心や構成の仕方を工夫して発表会を開く。 * 発表会では自分の考えと比べさせたり、他の体験の様子を聞いたりすることにより、さらに詳しく調べてみたいことを意識させ、個人課題につなげていく。	【ワークシート観察】積極的に活動し自分なりの感想をもつことができたか。 【観察ワークシート】 自分の考えと比べ、よさを見つけることができたか。 【ワークシート】 積極的にかかわりをもとうとしたか。 【観察 自己評価】	個人
	5 学習課題を設定する。 個人課題をつくらう課題ごとにグループをつくり、学習計画をたてよう	1	* 最後には調べたことを工夫して発表することをあらかじめ示し、発表会を意識させ調べ学習に取り組みさせていきたい。	個人課題をつくることができたか。 【ワークシート】	個人グループ
さ ぐ	6 計画にしたがって調べたり、体験したりする。 障害をもつ方との交流 ・ミニ講演会 ・ビデオ、映画	8	* グループ活動だけでなく、全体で行う共通体験も入れ、課題解決の方法としたい。	グループで考えた計画に従って、調べたり体験したりしているか。	グループ

る	<p>本インターネット 体験的な学習 施設の見学</p> <p>7 これまでの学習をま とめる。 ・調べたり体験した りした事実 ・事実から分かった こと、考えたこと、 感じたこと ・一番伝えたいこと</p>	3	<p>*これまで積み重ねてきた学 習シートを活用し、個人で まとめたり、グループで話 し合ったりしながら、「誰 かに」「一番伝えたいこと」 をまとめさせたい。</p>	<p>今まで調べたことを 事実と感想に分けて まとめることができ たか。</p>	個人 グループ
まとめる	<p>8 伝える方法を考える どんな方法で伝えま すか。 《計画作り》 ・だれに ・どんなことを ・どのように 《準備》 ・シナリオ作り ・必要な物の準備 ・役割分担 ・練習計画 《練習》 中間発表会をしよう 《修正》 ・シナリオの修正 ・練習</p>	8 本時 1/8	<p>*「目の見えない方に伝える。」 「耳の聞こえない方に伝え る。」など、相手意識をも たせ、相手に合った方法を 考えさせたい。また、手話 や点字など、実際に学習し た方法や、身体を使った表 現の仕方も取り入れるよう 支援する。</p> <p>*他のグループや学級の発表 の様子を知り、自分たちの 表現方法を見直す機会とし たい。より伝わる方法につ いて、グループごとに話し 合わせていきたい。</p>	<p>伝える相手のことを 考え方法を見つける ことができたか。 【ワークシート観察】 計画に従って、積極 的に準備を進めてい るか。 【ワークシート観察】 他のグループのよさ を見つけ、自分たち のグループに生かす ことができたか。 【ワークシート】</p>	グループ
いかす	<p>9 学年発表会を行う</p> <p>10 伝えたい相手に伝 える</p> <p>11 単元を通した感想 をまとめる。</p>	1 関連 1	<p>*他のグループの活動のよさを 学ぶとともに、自分たち のグループの活動を再認識 させその値打ちに気づかせ たい。</p> <p>*直接伝えられない場合は、 手紙やビデオなどを使って 伝えさせていく。</p>	<p>これからの自分の生 活について考えるこ とができたか。 【作文】</p>	個人

5 本時の学習活動

(1) ねらい

調べたり、考えたりしたことを伝えるため、その方法を考えることができる。
積極的に自分の考えを発言したり、他の人の発言の要点を聞きとったりしながら、話し合いを進めることができる。

(2) 展開

段階	学 習 活 動	時間	教師の支援と評価
つ か む	1 グループごとに、発表内容の主題を発表する。 2 本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">発表方法と準備計画を考えよう</div>	5	* 事前学習として、国語科『十才を祝おう』で学習した「話の中心が分かるようにスピーチ」することを生かした、おおよその発表内容を検討させておく。 * どんな障害を持った方を対象に発表するかやハンディキャップ体験でしたことを想起させるよう、補助的に発問し、見通しを持たせる。
さ ぐ る	3 どんな方法で発表するか話し合う。 ・手話 ・点字 ・作文 など 4 話し合ったことを発表する。 5 発表会までの計画をたてよう。 ・シナリオ作り ・表現の作成 ・練習	15 5 15	* 考えのまとまらない班には、これまでの学習シートをもう一度振り返らせるとともに、それに基づいたアドバイスを与えていく。 聞く人の立場になって、発表の方法を考えたか。 * 発表した後、他のグループからねらいに沿った内容かどうか評価してもらい、よりよい発表にするため、お互いの知恵を交流させたい。 * 発表内容の修正も含め、次時以降の活動計画と見通しを持たせたい。 自分の考えを発表することができたか。
ま と め る	6 話し合ったことを発表し合う。	5	* 自分のグループに生かせることはないか考えさせながら、聞かせたい。
い か す	7 次時への見通しを持つ。	2	* 今日の活動を振りかえりながら、次時への見通しをもたせる。